令和６年産　もも栽培こよみ（家庭果樹用）

JA尾張中央 営農指導課

時期	生育/管理	使用日	対象病害虫	RAC コード	薬剤名 濃度　（収穫前日数／回数）	水１００ℓ当たり薬量	肥料名	1㎡あたり施用量
8月	収穫後（中旬）	／	うどんこ病	3	（展着剤加用） トリフミン水和剤 1,500倍　（前日／3回）	66g	グリーンアタック14・8・10	40g
			シンクイムシ類 モモハモグリガ	28	（展着剤加用） フェニックス顆粒水和剤 4,000倍　（前日／2回）	25g		
12月	休眠期（上旬）	／	カイガラムシ ハダニ類及び その越冬卵	未	★マシン油乳剤９５ 16倍　（冬期）	6.2ℓ	ＦＴＥ有機配合８６６ 又は 園芸有機Ａ801号888 （発芽前）	160g
3月	（中旬）	／	縮葉病 せん孔細菌病	M03	（展着剤加用） ★チオノックフロアブル 500倍　（7日／5回）	200cc		
			アブラムシ類	4A	（展着剤加用） ★ダントツ水溶剤 2,000倍　（7日／3回）	50g		
4月	開花後（中旬）	／	灰星病 黒星病 せん孔細菌病	M03	（展着剤加用） ★チオノックフロアブル 500倍　（7日／5回）	200cc	◎記載の肥料が無い場合には窒素成分が同じくらいの肥料を施用してください。休眠期の12月に有機質肥料又は発芽前の３月に化成肥料を、収穫後の8月に化成肥料を施用してください。	
			シンクイムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ	3A	★アディオン乳剤 2,000倍　（7日／6回）	50cc		
5月	袋かけ前（中旬）	／	灰星病 黒星病 うどんこ病	3	（展着剤加用） ★トリフミン水和剤 1,500倍　（前日／3回）	66g	参　考 <有機質> ネオフルミックス(8･7･6) <化　成> グリーン化成444(14･14･14) 園芸化成(園芸特1号)(14･8･13)	
			カイガラムシ類 モモシンクイガ	1B	★マラソン乳剤 1,000倍　（7日／5回）	100cc		
6月	袋かけ後（上旬）	／	灰星病 黒星病	M07	（展着剤加用） ★ベルクート水和剤 2,000倍　（前日／3回）	50g		
			シンクイムシ類 モモハモグリガ	28	（展着剤加用） ★フェニックス顆粒水和剤 4,000倍　（前日／2回）	25g		
	（下旬）	／	灰星病 ホモプシス腐敗病	1	（展着剤加用） ベンレート水和剤 2,000倍　（前日／3回）	50g		
			シンクイムシ類 モモハモグリガ	4A	（展着剤加用） スタークル顆粒水溶剤 2,000倍　（前日／3回）	50g		

（備　考）
＊５割ぐらいのリスクを考えた場合の、防除指針です。
＊グリーンセンター・ファーマーズマーケットへ出荷される方は、部会用のこよみを参考にしてください。
＊ＲＡＣコードの活用により、薬剤抵抗性をつけないよう、違う記号の農薬でローテーション防除をしましょう。
＊★は、防除をした方が良い時期です。
＊薬剤を混合する場合、原則 展着剤→乳剤→フロアブル→水和剤の順に混ぜる。
＊防除薬剤には、展着剤（アグラー：水100ℓ当り10cc）を最初に混ぜてください。

①うどんこ病等の病気の発生した落葉を放置しておくと、病原菌の越冬場所となるので穴を掘って埋めるなど適切に処分する。
②せん孔細菌病の多発生する所は、防風垣や防風網を設置するか、風当りの強い所には植え付けない。
③カイガラムシ類が多発した時は、５月中旬にコルト顆粒水和剤2,000倍（前日／３回）（RACコード９B）を散布する。
④コスカシバ発生の多い時は、１０月下旬トラサイドＡ乳剤２００倍（収穫後～発芽前（幼虫食入期）／１回）（RACコード１B）を樹幹及び主枝に十分散布する。
⑤６月上旬には、袋かけをおこなう。

＊施肥基準の作成にあたって、生産部会、産直部会、愛知県施肥基準を参考にしました。
目標収量（１，500kg），窒素成分（１６kg），成木本数（３０本）で施肥設計しました。
基肥として、１２月なら緩効性・３月なら速効性肥料を施用してください。
なお、園地観察・収量・土壌診断結果を参考に適正な施肥を行って下さい。

＊産直店舗へ出荷される方は、部会・産直部会用のこよみを使用してください。

令和５年１０月作成